

# 病害虫発生予察注意報第 1 号

令和 2 年 6 月 30 日  
三重県病害虫防除所

1. 対象作物 : 水稻
2. 対象病害虫名 : いもち病(葉いもち・穂いもち)
3. 発生地域 : 県内全域
4. 発生時期 : 7月上旬～8月中旬
5. 予想発生量 : やや多(一部ほ場で多)

## 6. 注意報発令の根拠

- 1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、葉いもちの発生圃場率は0%(平年0.0%)と少ないながら、置き苗があった20圃場のうち2圃場で置き苗での発生が認められました。6月24日に実施した追加調査では中～南勢地域で葉いもちの発生が確認されました。今後は中山間部や業務用米の多肥栽培品種(特にいもち病に対し罹病性の高い品種)で発生が多くなると予想されます。
- 2) いもち病発生予測支援システム(プラスタム)によると、6月1～25日の県内アメダスポイント12か所の気象データをもとに判定した感染好適条件出現回数は計31回で、過去10年の結果と比較して2番目に多くなっています(表)。
- 3) 1か月予報(6月25日・名古屋地方気象台発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。既に葉いもちを発病している圃場では、上位葉に病斑が進展する可能性があります。

## 7. 防除上の注意事項

- 1) 葉いもちが発生している圃場では、出穂前に葉いもち防除を徹底しましょう。
- 2) 穂いもち防除は予防散布が原則です。出穂期から穂揃期に薬剤散布しましょう。
- 3) 雨天が続く可能性があるため、天気予報を参考にしながら、雨の合間を見計らって防除を行いましょう。
- 4) 追加防除を行う場合は農薬使用回数に注意しましょう。薬剤の選定は最寄りの農協等にご相談ください。
- 5) 薬剤散布をする時は周囲に飛散しないよう注意しましょう。
- 6) 飼料用水稻や業務用米などの普通期水稻は、これから最も葉色が濃くなり、発病しやすい時期となるので注意しましょう。
- 7) QoI 剤(ストロビルリン系殺菌剤)の使用は最大年1回とし、耐性菌の発生を未然に防ぎましょう。
- 8) QoI 剤を使用したにもかかわらず、ずり込み症状などの発病があれば、病害虫防除所、農業研究所、農業改良普及センターや農協等へ速やかにご連絡ください。

表 いもち病発生予測支援システム(プラスタム)における感染好適条件出現回数の過去10年との比較<sup>2)</sup>

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	平均 <sup>3)</sup>
出現回数	22	24	12	26	43	30	20	2	25	20	31	22.4

<sup>2)</sup>: 三重県内のアメダスポイント(12か所)における6月1～25日のいもち病感染好適条件出現回数の合計

<sup>3)</sup>: 2010～2019の平均

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください！